

# 二〇二二年度 大学入学共通テスト 解説〈現代文〉

## 第1問 評論

【文章Ⅰ】 檜垣立哉『食べることの哲学』

【文章Ⅱ】 藤原辰史『食べるとはどういうことか』

### 〔総括〕

第1問では、「食べる」ことと生命の関係について論じた二種類の文章が【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】というかたちで出題された。問1の漢字問題では、新傾向の出題が見られた。問2、問3は【文章Ⅰ】からの出題（傍線部問題）、問4、問5は【文章Ⅱ】からの出題（問4が傍線部問題、問5は表現に関する問題）であった。問6は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の関係理解を問う新傾向の問題であった。全体の難易度としては、やや難化した印象を受ける。

### 〔解説〕

#### 問1 漢字問題 基礎

(i) 傍線部(ア)・(イ)・(エ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(イ)の選択肢はすべて同音異義語（読み方は同じだが意味は異なる語）である。同音異義語の知識を問う問題は今後も出題されることが予想される。漢字一字一字の意味を確認しながら覚えることが肝要である。そのことは新傾向の出題である問1(ii)への対策にもなるだろう。

- |     |      |     |      |      |      |
|-----|------|-----|------|------|------|
| (ア) | 過剩   | ①冗長 | ◎②剰余 | ③浄化  | ④常軌  |
| (イ) | 傷ついた | ①勸奨 | ◎②鑑賞 | ◎③感傷 | ④緩衝  |
| (エ) | 遂げる  | ①類推 | ②生粹  | ③麻酔  | ◎④完遂 |

- 正解 (ア) ① ② (イ) ② ③ (エ) ③ ④

(ii) 傍線部(ウ)・(オ)とは異なる意味を持つものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ほとんどの漢字には、中国語としての漢字の発音に基づく「音読み」と、その漢字の意味を日本語に翻訳した読み方である「訓読み」があり、大雑把に言えば、「音読みは中国語読み」、「訓読みは日本語読み」である。たとえば「シャ」と言われても何のことかわからないが、「くるま」と言われれば理解できる。訓読みを覚えることは、漢字の意味を理解することである。

(ウ) 「襲」という漢字には、訓読みが三種類あり、したがって意味も三種類ある。1. 襲う⇨人に攻撃を加える(襲撃など)、2. 襲ぐ⇨人のあとを継ぐ(踏襲、襲名など)、3. 襲ねる⇨衣服を重ねて着る(襲衣など)。

選択肢①、③、④はすべて1の意味だが、選択肢②の「世襲」は、(前の世代の地位・財産・職業などを次の世代が受け継いでいくこと)であり、2の意味である。

(オ) 「与」という漢字には、訓読みが三種類あり、したがって意味も三種類ある。1. 与える(与奪、与件など)、2. 与する⇨なまになる・味方する(与党、与国など)、3. 与る⇨関係する・目上の人からの恩恵を受ける(関与、参与など)。選択肢①、②、④はすべて1の意味だが、選択肢③の「関与」は3の意味である。

- (ウ) 襲い ①夜襲 ②世襲 ③奇襲 ④来襲  
 (オ) 与える ①供与 ②贈与 ③関与 ④授与

- 正解 (ウ) ④ ② (オ) ⑤ ③

問2 内容説明問題 標準

傍線部A「ここからよだが、つぎのように思考を展開していく」とあるが、筆者はよだかの思考の展開をどのように捉えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

設問の要求が、「よだかの思考の展開を筆者がどのように捉えているのか」であることに注意しよう。筆者がよだかの思考の展開（どのように思考を進めていったか）をいかに捉えているかは、本文を通じて繰り返し述べられているが、整理すると次のようになる。

①なぜ自分は生きているのか（普通の人間の誰もが抱く感情・自分の生のどこかに困難を抱えていること⇨われわれすべての鏡）

②なぜ自分のような存在が他の生き物を食べて（⇨殺して）生きていくのか

③自分は何も食べずに絶食し、空の彼方へ消えてしまおう（自らが燃え尽きることにより、自己の行為を昇華⇨星になる）

以上の内容を適切に説明している①が正解。

②は、①・②の要素が誤り。

③は、①・②・③の要素がすべて誤り。

④は、「他者を犠牲にして生きる（②）」⇨「自分の存在自体が疑わしいものとなり（①）」の部分の順番が逆。また、③の要素も誤り。

⑤は、①・②・③の要素がすべて誤り。

正解 ⑥ ①

## 問3 内容説明問題 応用

傍線部B「人間である(ひょっとしたら同時によだかでもある)われわれすべてが共有するものではないか」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部Bの主語が、傍線部直前の「それは」であることに着目する。「それ」という指示語は、前文の「心が傷ついたよだか」の抱いた「それでもなお羽虫を食べるといふ行為を無意識のうちになしていることに気がつき『せなかがぞっとした』『思ひ』を指している。そのよだかの「思ひ」は、「人間であるわれわれすべてが共有するもの」、つまり普遍的な思いだというのである。第2段落に「なぜ自分は生きていのかとおもう。ある意味では、多かれ少なかれ普通の人間の誰もが、一度は心のなかに抱いたことのある感情だ」とあったのを思い出そう。整理すると、次のようになる。

よだかの思い(＝人間であるわれわれすべてが共有するもの)

=

- ① 心が傷ついたよだかが(＝なぜ生きているのかとおもうような自分が)
- ② それでもなお羽虫を食べるといふ行為を無意識のうちになしていることに気がつき(＝他の生き物を殺して生きていることに気がつき)
- ③ 「せなかがぞっとした」「思ひ」

要素③の『せなかがぞっとした』『思ひ』とは、〈生きる価値のないような自分が①、それでもなお他の生き物の生命を奪って生きている②〉という、矛盾した自己のありように気がついたときの寒気がするような思いを言ったものだろう。したがって正解は②。②は要素①と②の間の矛盾したありようと、それに気づいたときの思いを正しく説明している。

①は、「動物の弱肉強食の世界でいつか犠牲になるかもしれないと気づき」が要素②の説明として不適。また「自己の無力さに落胆する」も要素③の説明として不適。

③は、「自己を変えようと覚悟する」が要素③の説明として不適。

④は、「理不尽な扱いに打ちのめされていた自分が、他者の生命を無自覚に奪っていたことに気づき」となっており、①と②の矛盾を正しく説明していない。また「自己の罪深さに動揺する」の部分も、〈矛盾した自己のありように気がついたときの思い〉の説明として不適。

⑤は、「惨めさから逃れたいともがいていた自分」が要素①の説明として不適。また「知らないままに弱肉強食の世界を支える存在であったことに気づき」も要素②の説明として不適。

正解 7 ②

問4 内容説明問題 標準

傍線部C「二つとも似ているところさえあります」とあるが、どういう点で似ているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部の「二つ」とは、第5・6段落で説明されている、「どこまでが食べものであり、どこからが食べものでないのか」についての「二つの極端な見方」である。

①人間は「食べて」などいない（＝人間は、生命の循環の通過点にすぎないのであって、地球全体の生命活動がうまく回転するように食べさせられている）

②ずっと食べものである（＝食べものは、生きものの死によって、つぎの生きものに生を与えるバトンリレーである）

この二つの見方の似ているところは、へどちらも、生命循環の一通過点として人間の食行動を捉えているという点だろう。大きな生命循環の一部として人間の食行動を捉えているのは②だけ。したがって正解は②。

①・③・④・⑤は全て選択肢の後半が誤り。

正解 8 ②

問5 表現に関する問題 応用

【文章Ⅱ】の表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

表現に関する問題でポイントとなるのは、次の二点である。

- ・表現方法に関する知識（倒置法、比喩法、擬態法、押韻など）
- ・表現と効果の因果関係（「～」という表現によって、～という効果を狙っている」「～」に表現すること、～に描いている」等）

今回の設問でも右の二つがポイントとなった。まず指摘しておきたいのは、「擬人法」についてだ。【文章Ⅱ】では「擬人法」が多用されていたが、「擬人法」は比喩の一種である。擬人法を比喩ではないと思ってしまった場合、正答に辿り着くことができない。

次に「表現と効果の因果関係」について。問5のすべての選択肢が「……表現すること、……説明している／……描いている」という構造になっていることに着目しよう。ほんとうに「その効果」は、「その表現」によってもたらされているのか、それを確認していく。

①と⑤は、本文と照らし合わせることで簡単に間違いだとわかるが、それ以外の選択肢は「表現と効果の因果関係」に着目しなければ、正誤を明確に判定することができない。

①「食べられる生きものの側の心情」は表現されていないので誤り。

②「～を比喩的に表現すること、～を厳密に描いている」の因果関係が不適。比喩表現は「わかりやすさ、面白さ」をもたらすものであり、「厳密さ」をもたらすものではない。

③「～を擬態語を用いて表現すること、～を筋道立てて説明している」の因果関係が不適。擬態語を用いることは、筋道立った説明にはつながらない。

④「比喩を多用して～を表現すること、～を軽妙に説明している」の「軽妙」とは「気が利いていておもしろいこと・軽快で滞りなく上手なこと」の意であり、比喩の多用によってもたらされる効果の説明として適切な言葉であろう。また、「生きものが他の生物の栄養になるまでの流れ」とは、豚肉（生きもの）が人間（他の生物）に食べられ、栄養として摂取されるまでの過程のことであり、【文章Ⅱ】の内容に即している。正解は④。

⑤「生きものが消化器官でかたちを変えて物質になるさま」が誤り。生きものは消化器官で物質になるのではなく、口に入れる段階ですでに物質

である。また、【文章Ⅱ】には比喩表現はあるが「誇張」した表現は見受けられない。

正解  9  ④

問6 発展的学習に関する問題 応用

Mさんは授業で【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで「食べる」ことについて自分の考えを整理するため、次のような【メモ】を作成した。これについて、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

(i) Mさんは〈1〉を踏まえて〈2〉を整理した。空欄  X に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

設問文をよく読もう。「Mさんは〈1〉を踏まえて、〈2〉を整理した」のである。〈1〉は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に共通する要素、すなわち「どちらも「食べる」ことと生命の関係について論じている」ということである。このことを踏まえて、〈2〉を整理するのだから、空欄  X には、【文章Ⅰ】における「食べる」ことと生命の関係が述べられているはずだ。【文章Ⅰ】の最終段落にそれは端的に述べられている。

むしろここでみいだされるのは、心が傷ついたよだが、それでもなお羽虫を食べるという行為を無意識のうちになしていることに気がつき「せなかがぞつとした」「思ひ」をもつという一点だけにあるようにおもわれる

生きている意味が見いだせなくなった自分が、それでも無意識的に食べてしまっているということ、つまり他者の生命を奪って生きてしまっているということ。この内容に合う②が正解。「否応なく」とは、〈承知も不承知もなく・有無を言わず〉の意。ここでは〈望むと望まざるとにかかわらず〉といった意味だろう。

①は、「弱者の生命の尊さを意識させる行為」が誤り。

③は、「意図的に」が誤り。

④は、「食物連鎖から生命を解放する契機となる行為」が誤り。

正解  10  ②

(ii) Mさんは〈1〉〈2〉を踏まえて「〈3〉まとめ」を書いた。空欄 Y に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の共通点と相違点とを踏まえた上での「まとめ」となる内容を選ぶ。

①は「……よだかの苦悩は、……多様な現象の一つに過ぎない」が誤り。よだかの苦悩は、自分が生きるために他者の生命を奪わなければならないという、全ての動物がもつ宿命に目を向けた本質的なものであり、それを「多様な現象の一つに過ぎない」と言うことはできない。また、「自他の生を昇華させる行為は、地球全体の生命活動を円滑に動かすために欠かせない要素である」も不適。「地球全体の生命活動を円滑に動かすために欠かせない要素」とは、他者の生命を奪う「食べる」という行為であり、「自他の生を昇華させる行為」ではない。

②は、「よだかが飢えて死のうとすることは、生命が本質的には食べてなどいないという指摘に通じる」が誤り。【文章Ⅱ】の第5段落で述べられている「人間は『食べて』などいないという見方」とは、「地球全体の生命活動がうまく回転するように食べさせられている」という見方であり、「飢えて死のうとすること」とは異なる。

③は、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の内容から導き出せる見解であり、適当。正解は③。

④は、「食物連鎖の関係は、命のバトンリレーのなかで解消される」が誤り。むしろ食物連鎖の関係は、命のバトンリレーそのものである。

正解

11

③



第2問 小説 黒井千次「庭の男」(一九九一年発表)

(設問中に飯田蛇笏、高浜年尾、夏目漱石の俳句が引かれている)

〔総括〕

出典は戦後の内向の世代を代表する作家、黒井千次の作品。引用箇所の子数は昨年よりやや少ない。設問数・マーク数ともに一つ減り、例年出題されていた問1の語彙の設問がなくなった。その代わりに問1は内容に関する読解問題となった。正解を二つ選ぶ設問であることは注意を要する。問4は傍線部問題ではなく、本文の表現と「私」の心情の関連を問う問題であった。問5の(i)は生徒の調べたノートをもとにした、「大学入学共通テスト」らしい特徴的な問題。この設問形式に不慣れな受験生にとっては解答するまでに時間がかかったかもしれない。また、問5では本文の言葉に関連する俳句が「解釈のメモ」とともに三句引用される新傾向の出題が見られたが、このようなかたちで俳句や短歌、詩が引用され、その理解を問う問題は、今後も出題されるかもしれない。全体の難易度としては、やや難化した印象を受ける。

〔解説〕

問1 内容説明問題 標準

傍線部A「隣の少年だ、と思うと同時に、私はほとんど無意識のように道の反対側に移って彼の前に立っていた。」とあるが、「私」をそのような行動に駆り立てた要因はどのようなことか。その説明として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。

正解を二つ選ぶことに留意する。

散歩中の「私」が、向こうからやってきた隣家の少年の前に思わず立ちはだかった要因は、

- ① 気になって仕方がない庭の立看板をなんとかしてほしいと思っていたこと
- ② しかし、少年の頭越しに(少年を經由せずに)問題を解決するのはフェアではないと思っていたこと

といったところだろう。

このような内容を踏まえている②と⑥が正解である。⑥の「少年を説得する方法を思いつけないにもかかわらず」という箇所は、第1段落の「落着いて考えてみれば、その理由を中学生かそのらの少年にどう説明すればよいのか見当もつかない」と合致する。

①は、「少年にどんな疑惑が芽生えるか」が誤り。傍線部Aの前段落にある「相手の内にいかなる疑惑が芽生えるか」の「相手」とは少年のことではなく、少年の親のことである。

③は、「男と睨み合ったとき、お前は案山子ではないかと言ってやるだけの余裕が生まれていたこと」とあり、これでは少年の前に立ちはだかつた要因とは言えない。リード文から、「案山子」＝「看板の男」であり、看板の男に対する余裕が生まれていたのであれば、わざわざ少年の前に立ちはだかつて、看板撤去のお願いをする必要はない。

④も、「私」が少年の前に立ちはだかつた要因とはなりえない。

⑤も、「私」が少年の前に立ちはだかつた要因ではない。また、傍線部Aの後で、少年の前に立ちはだかつた「私」が少年に話した内容とも矛盾する。

正解 12・13 ②・⑥

問2 心情説明問題 標準

傍線部B「身体の底を殴られたような厭な痛み」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

「身体の底を殴られたような厭な痛み」を説明している箇所は二カ所ある。

「一応は礼を尽して頼んでいるつもりだった」のに、「中学生の餓鬼にそれを無視され、罵られた」ことによる精神的な痛み（傍線部の直前）。

「無視と捨台詞にも似た罵言とは、彼が息子よりも遥かに歳若い少年だけに、やはり耐え難かつた」（傍線部の次の段落）。

——が傍線部の心情の言い換え、——がその心情をもたらした理由である。

この部分を正しく踏まえている①が正解。心情は理由とセットで把握する。

②は、「少年から非難され」が誤り。「私」は頼みごとを無視され、「ジジイ」と罵られてはいるが、非難されてはいない（非難＝相手の欠点やミ

スなどを取り上げて責め立てること)。また「そのことを妻にも……深い孤独と屈辱感」の部分も誤り。

③は、「説得できると見込んでいた」が誤り。問1でも確認したとおり、「私」は「少年にどう説明すればよいのか見当もつかない」だったのである。

④は、心情をもたらした原因が違う。傍線部の心情をもたらした理由は「看板についての交渉が絶望的になったと感じたこと」ではない。

⑤は、「妻の言葉を真に受け」が誤り。第1段落には「……という妻の示唆を、私は大真面目で受け止めていたわけではなかった」とある。また、選択肢の後半「……自分の態度に、理不尽さを感じたことによる強い失望と後悔」も誤り。

正解 14 ①

問3 心情説明問題 標準

傍線部C「あ奴はあ奴でかなりの覚悟でことに臨んでいるのだ、と認めてやりたいような気分がよぎった」における「私」の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

心情と理由をセットで把握する。

傍線部の「私」の心情は、

① 少年の覚悟だけは認めてやりたいと(ちらっと)思った

そしてその心情をもたらした理由は

② 看板が予想外に丈夫な素材でできていたこと(傍線部Cの前の段落)

③ 看板が簡単には動かせないように固定されていたこと(傍線部Cを含む段落)

である。この三つの要素を正しく説明している③が正解。

①は、「彼を見直したいような気持ち」が誤り。「私」が認めてやりたいと思ったのは少年自身ではなく、少年の覚悟である。

②は、「陰ながら応援したいような新たな感情」が誤り。

- ④は、「この状況を受け入れてしまったほうが気が楽になるのではないかという思い」が誤り。  
 ⑤は、「彼の気持ちを無視して一方的に苦情を申し立てようとしたことを悔やみ、多少なら歩み寄ってもよいという考え」が誤り。

正解 15 ③

問4 表現と心情の関係を問う問題 応用

本文では、同一の人物や事物が様々な呼び表されている。それらに着目した、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

- (i) 隣家の少年を示す表現に表れる「私」の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

少年を示す表現の差異を、「私」の少年に対する心情の差異として正確に読み取れたかどうかを問う設問である。迷ったら本文の該当箇所に戻り、照合作業を慎重に行おう。ただし、本文を十分に理解して読んでいけば、いちいち戻って照らし合わせるまでもなく正解／不正解の判別はできる。「雑に読んで丁寧に解く」のではなく、「丁寧に読んで速く解く」ことが肝要。

- ①は、「我が子に向けるような親しみを抱いている」が明らかな誤り。  
 ②は、適当な説明であり、これが正解。問2の内容とも重なる。  
 ③は、「少年とのやりとりの最中はずねに『君』と呼んで尊重する様子を見せる一方で、少年の外見や言動に対して内心では『中学生の餓鬼』『あの餓鬼』と侮っている」が誤り。「中学生の餓鬼」などといった呼称は、少年とのやり取りが終わった後に、そのやり取りを振り返った「私」が煮えくり返る思いで吐き出すように思ったことであり、やり取りの最中に思ったことではない。また少年を「侮っている(＝馬鹿にしている)」わけでもない。  
 ④は、「彼の若さをうらやんでいる」が明らかな誤り。  
 ⑤は、「彼の年頃を外見から判断しようとしている」が明らかな誤り。

正解 16 ②

(ii) 看板の絵に対する表現から読み取れる、「私」の様子や心情の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

客観的にはただの映画の立看板にすぎないものを、まるで生身の人間のように感じ、その目が気になってならない「私」は、まるで案山子を恐れる雀のように自分を感じている。しかし、そのような思いが少年に伝わるはずもないと感じているので、少年に対しては「映画の看板」、あるいはやや媚を売って「素敵な絵」などという言い方をしている。そのようなことが読み取れていれば、①を正解として選ぶことができたろう。「……『素敵な絵』とたたえて配慮を示した直後に『あのオジサン』と無遠慮に呼んでおり、余裕をなくして表現の一貫性を失った様子が読み取れる」という内容も、「物扱い」から「人扱い」へと看板の扱いを変えてしまった「私」の混乱ぶりを表しており、可能な解釈の範疇に収まるものといえる。

②は、「少年が憧れているらしい映画俳優」の部分が根拠のない表現であることに加え、「あのオジサン」と呼ぶことが「映画俳優への敬意を全面的に示す」行為だとはとてもいえないので、不適。

③は、『私』は妻の前では看板を『案山子』と呼び、単なる物として軽視している」が明らかでない。『案山子』は、「私」にとって看板が単なる物ではなく、気になって仕方がない存在であることを表す比喩である。

④は、「少年の前でとっさに『映画の看板』『素敵な絵』と表してしまったため、親しみを込めながら『あのオジサン』と呼び直している」が明らかでない。少年の前で「映画の看板」「素敵な絵」と表すことは、むしろ望ましいことである。

正解 17 ①

問5 発展的学習に関する問題 応用

Nさんは、二重傍線部「案山子にとまった雀はこんな気分がするだろうか、と動悸を抑えつつも苦笑した。」について理解を深めようとした。まず、国語辞典で「案山子」を調べたところ季語であることがわかった。そこでさらに、歳時記（季語を分類して解説や例句をつけた書物）から「案山子」と「雀」が詠まれた俳句を探し、これらの内容を【ノート】に整理した。このことについて、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

(i) Nさんは、「私」が看板を家の窓から見ていた時と近づいた時にわけたうえで、国語辞典や歳時記の内容と関連づけながら【ノート】の傍線部について考えようとした。空欄  X と  Y に入る内容の組合せとして最も適当なものを、後の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

設問文の情報量が多いが、落ち着いて求められていることを読み取ろう。

・看板を家の窓から見ていた時の「私」の認識……空欄  X

・看板に近づいた時の「私」の認識……空欄  Y

看板を家の窓から見ていた時は、「私」は案山子におびえる雀のようであったのだから、空欄  X に入るのはアである。また、看板に近づいた時には、「私」は看板を「ただの板」と捉えていたので、空欄  Y に入るのは、ウである。したがって正解は①。

正解  18 ①

(ii) 【ノート】を踏まえて「私」の看板に対する認識の変化や心情について説明したものとして、最も適当なものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。

「●国語辞典にある『案山子』の意味」と、「●解釈のメモ」を参考にしつつ挙げられている俳句の意味を捉え、それをこれまでの理解と重ねていく。はじめ「私」は、看板の男の目が気になって仕方がなかった(ア・①) ←

しかし看板のそばまで行ったとき、それが「ただの板」でしかないと感じ、そんなものを恐れていた自分に苦笑する(イ・b、③)

以上の内容を正確に示している⑤が正解。

①は、「はじめ『私』は、◎『某は案山子にて候雀殿』の虚勢を張る『案山子』のような看板に近づけず」が誤り。

②は、「はじめ…：自分に危害を加えるようなものではないと理解していた。しかし、意を決して裏の庭に忍び込んだことで、看板の㊦『おどし防ぐもの』としての効果を実感し」が誤り。逆である。

③は、「『ただの板』に対する怖さを克服しえた自分に自信をもつことができたと感じている」が誤り。二重傍線部の「苦笑した」とは、「ただの板」を気に病んでいた自分を嘲るような「私」の思いを表している。

④は、「暗闇に紛れて近づいたことにより、…：な存在であることを発見し」が誤り。「暗闇に紛れて近づいたから」ではなく、単に「そばに近づいたから」である。また、「『ただの板』である看板に心を乱されていた自分に哀れみを感じている」も誤り。「苦笑した」の解釈として不適。

正解 ⑤

19

⑤